

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901019		
法人名	有限会社 ぞう		
事業所名	グループホーム ぞう ユニット1		
所在地	旭川市末広1条13丁目2番10号		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0172901019-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901019-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年5月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方々の安全・安心・安定した生活を可能とする地域づくりや、未来を見据えて働くことができる意義ある職場環境への取り組みを行いながら、サービスの向上を目標に掲げ、地域住民と一緒にどんな状態になっても「尊厳」を持ってこの街に暮らしてゆくことができるためのホームだと思っています。関心を持ち合える地域づくりを住民の方々と語り合えるようになったのはとても嬉しいことですし、私達の励みもなっています。町内に未来を考える「希望の会」ができました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<事業所の持つ専門性を活かした地域貢献>**  
市民講座で認知症サポーター養成講座の講師を定期的に努めて広報や啓発に取り組んだり、看護学校で認知症についての講師や高齢者専用住宅事業所の職員研修事業で講習会を実施するなど事業所の持つ専門性を地域のサービス向上に活かす取り組みを実践している。また、地区社協・市民委員会・民生委員・町内会との意見交換や地域の福祉のニーズへの対応等地域に密着した活動に取り組んでいる。

**<ターミナルケアの実践>**  
地区社協や町内会等と協力しながら地域の困難事例解決への取り組みや重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所内でできることを十分に説明しながらターミナルケアを実践している。また、事業所内で「尊厳」について研修会を開催して、スタッフ自身の在り方について学んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をスタッフと共有し、ホームと地域の繋がりを大切に、おりにふれて会話している。意義をホーム理念に繁栄させている。	事業所独自の理念をつくりあげ、その実践のためにユニット毎の目標設定や職員個々の目標を明確にしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会参加継続。町内を面で支える役割を目標としている。	地区社協・民生委員・町内会等との意見交換や地域の福祉のニーズへの対応等地域に密着した活動や地区社協や町内会等と協力しながら一人暮らしの高齢者の安否確認や見守り等地域の困難事例解決へ共に取り組んでいる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人代表及び全スタッフは実績・実践を踏まえ地域の人々の様々な研修・会合の立案、計画し認知症ケアの理解に努めている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーとの関係も強化され、様々な意見等が増えサービス向上に繋がっている。	民生委員や地区社協、町内会役員が参加して2ヶ月毎に開催し、地域の福祉のニーズや困難事例解決への取り組みなど具体的内容について話し合い、そこでの意見や情報をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が加わったことにより、より内容のある、運営推進会議がもてるようになった。	市担当者とは、研修会参加や情報交換を行い、ケアサービスの質の向上のために協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束によって入居者様が受ける身体的・精神的弊害について十分理解できるよう、施設内研修、外部研修等に参加し学んでいる。日中は施錠していない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会の研修会実施で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修・外部研修参加を強化。おりにふれて理解の場を持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとにスタッフに説明。対応必要時は支援につなげている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、ホームn対応理念、利用料金や、生活支援の中でのリスク、体調変化時の対応等々など、また最期の在り方も話し合っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族の会話・態度から可能な限り察知しスタッフと共有できる体制をとっている。運営推進会議参加のご家族も積極的に意見を伝えてくれる。	本人・家族、来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。また、苦情等の第三者機関への申し出先を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、各部会等々の意見を踏まえ入居者様の生活利益に反映するようにしている。	ユニット会議やモニタリング等を通じて、職員の意見や提案を運営に反映する機会を設けている。また、職員の自己啓発の場を提供し、事例検討の機会や終末期のあり方等を検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自身の現場就労経験を基にスタッフの想いがどこにあるのか常に心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全スタッフの能力・力量を勘案し、法人内外を問わず研修の機会を確保しスキルアップを願っている。代表者自身も貪欲に学ぶ機会を多くもっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は機会があるごとに、スタッフを交流場面に参加させている。それは同業者の枠を超えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の想いや不安を受け止め、その人自身の安心を知ることにかけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族のご苦労、不安を真摯に受け止め次の段階に進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で必要なことを判断しホームのネットワークを使い対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想いや根本にある苦しみ、不安、嬉しさなどを感じることに努め、日々の生活の中で共に支え合う関係に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いも尊重し入居者の生活状況や言葉をどんどん伝え、共有している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りご本人の想いや状態に合わせて、懐かしさを感じることが出来るように、ご家族と協力している。	散歩や買い物等が自由にできるような支援や小学校の運動会見物や地域の盆踊り等の行事参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係について情報を全スタッフが共有できるようにノート、申し送りなどに心がけている。心身の状態や気分、感情で日歩変化することもあるので、配慮し見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様と顔が見られるお付き合いをしている。地域密着型だからこそだと感じる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話・表情などからご本人のメッセージを受け止め記録等で共有している。意思疎通困難な方はご家族からの情報を頂いている。	アセスメントの実施やセンター方式を活用して、一人ひとりの思い・暮らし方の希望、意向の把握し、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時または生活支援に必要と感じた場合は可能なかぎりご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き反映させている。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式の活用や本人・家族の意見や意向、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事・水分・排泄等身体状況および生活状況での言葉・メッセージを記録し、スタッフ間共有に活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況・要望に柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域の中で生活できるように、民生委員・市民委員会・地区社共・町内会と意見交換できる機会を持っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。また内科医の往診が受けられるようにしている。	医師の往診や受診支援、看護師との連携等で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフは日々の健康管理や医療連携の大切さを十分理解し、ホーム看護師、協力医院看護師、訪問看護師とつねに連携し、入居者様の支援を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入居者様のダメージを極力防ぐために頻繁に出向き、早めの状況把握に努め早期退院につなげている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階からホームの終末期の対応方針を伝えている。選択された方には看取り指針に沿って支援させていただいている。ご家族が望まれる場面が増えてきた。現在も支援中。早い段階からの支援の重要性が本当に大切と考える	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながらターミナルケアを実践している。また、事業所内で「尊厳」について研修会を開催して、スタッフ自身の在り方について学んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はすぐ対応できるように医療機関と連携している。スタッフには応急手当などの対応研修を行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフの意識づけ、訓練等はもとより地域、町内の協力を要請できる話し合いが持たれている。ホーム自身も地域の支援資源となれるように町内会と調整中。	毎月の避難訓練実施、地域住民参加や消防署の協力を得て年2回火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや報知器、通報装置等の設備が完備し、定期点検を実施している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修等にて「尊厳」の本質に触れるたびに話し合いを行い、スタッフ自身の在り方について学んでいる。	事業所内で「尊厳」について研修会を開催して、スタッフ自身の在り方について学ぶ機会を設けて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定するのではなく、入居者様一人ひとりに可能な限り選択肢を揃えご本人に決めて頂いている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて支援している。強制的な日課はありません。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。ご自身で困難な方はスタッフが配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活支援の中で「食事」は重要と考え、一食一食を生活の楽しみにしている。食事を通して「生きている」実感できると考える。季節感、作る喜びなど、支援の内容は栄養班が中心に動いている。メニュー表は毎月ご家族へ送っている。	栄養委員会で、一人ひとりの好みや力を把握し、毎日の調理や食事の準備等職員と一緒に楽しんで行えるよう検討している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分などの日々チェック記録。情報は共有。一人ひとりの状況に応じて形態・環境を考え工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア重要性を全スタッフが理解し、それぞれの方の能力に合わせて支援している。感染症が少ないのも自慢である。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの方の状態を把握し可能な限りトイレへ誘導。オムツ外しに向かいたい。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の生活状況食事・排泄・運動量などを考慮。自然排便に心がけている。下剤使用時も看護師・医師と相談している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む人もいるが、声かけ・対応を工夫し、羞恥心・恐怖心に配慮している。判断可能な方々は曜日、時間を選択している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、入浴拒否の強い本人にも個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し支援している。判断が困難な方はスタッフが判断している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方変更があった場合は、全スタッフが把握するまで申し送る。また薬の内容(目的・用量・副作用)を理解するよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でそれぞれに行ったり、昔の習慣が継続出来るようスタッフは環境づくり、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の状態に合わせ、ご家族の協力等もあり戸外に出かけられるよう支援を行っている。	散歩や買い物等自由に出かけられるように支援に努め、レクリエーション委員会で外出計画を立てている。また、紅葉狩りや夏祭り参加や花壇の花植え等戸外で過ごせるように工夫した支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意を得てそれぞれの方々に合わせた支援を選んでいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話回線をひいている方、携帯電話をお持ちの方、ホームの電話を使用する方、それぞれである。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮、家具の配置などスタッフがユニットごとの雰囲気を感じ話し合っている。居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活環や季節感のあるものを工夫している。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しではあるが一人で過ごせたり、少人数で過ごせる場所を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人やご家族が自由に空間づくりをおk内、支援が必要な場面はスタッフが相談に乗っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせた環境整備に出来る限り努め、状態が変化し混乱が生じた場合は、その都度スタッフは話し合い、不安材料を取り除いている。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901019		
法人名	有限会社 ぞう		
事業所名	グループホーム ぞう ユニット2		
所在地	旭川市末広1条13丁目2番10号		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方々の安全・安心・安定した生活を可能とする地域づくりや、未来を見据えて働くことができる意義ある職場環境への取り組みを行いながら、サービスの向上を目標に掲げ、地域住民と一緒にどんな状態になっても「尊厳」を持ってこの街に暮らしてゆくことができるためのホームだと思っています。 関心を持ち合える地域づくりを住民の方々と語り合えるようになったのはとても嬉しいことですし、私達の励みもなっています。 町内に未来を考える「希望の会」ができました。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172901019-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901019-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年5月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をスタッフと共有し、ホームと地域の繋がりを大切に、おりにふれて会話している。意義をホーム理念に繋ぎ込んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会参加継続。町内を面で支える役割を目標としている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人代表及び全スタッフは実績・実践を踏まえて地域の様々な研修・会合の立案、計画し認知症ケアの理解に努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーとの関係も強化され、様々な意見等が増えサービス向上に繋がっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が加わったことにより、より内容のある、運営推進会議がもてるようになった。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束によって入居者様が受ける身体的・精神的弊害について十分理解できよう、施設内研修、外部研修等に参加し学んでいる。日中は施錠していない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修・外部研修参加を強化。おりにふれて理解の場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとにスタッフに説明。対応必要時は支援につなげている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、ホームn対応理念、利用料金や、生活支援の中でのリスク、体調変化時の対応等々など、また最期の在り方も話し合っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族の会話・態度から可能な限り察知しスタッフと共有できる体制をとっている。運営推進会議参加のご家族も積極的に意見を伝えてくれる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、各部会等々の意見を踏まえ入居者様の生活利益に反映するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自身の現場就労経験を基にスタッフの想いがどこにあるのか常に心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全スタッフの能力・力量を勘案し、法人内外を問わず研修の機会を確保しスキルアップを願っている。代表者自身も貪欲に学ぶ機会を多くもっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は機会があるごとに、スタッフを交流場面に参加させている。それは同業者の枠を超えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の想いや不安を受け止め、その人自身の安心を知ることにかけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族のご苦勞、不安を真摯に受け止め次の段階に進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で必要なことを判断しホームのネットワークを使い対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想いや根本にある苦しみ、不安、嬉しさなどを感じることに努め、日々の生活の中で共に支え合う関係に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いも尊重し入居者様の生活状況や言葉をどんどん伝え、共有している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りご本人の想いや状態に合わせ、懐かしさを感じる事が出来るように、ご家族と協力している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係について情報を全スタッフが共有できるようにノート、申し送りなどに心がけている。心身の状態や気分、感情で日歩変化することもあるので、配慮し見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様と顔が見られるお付き合いをしている。地域密着型だからこそだと感じる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話・表情などからご本人のメッセージを受け止め記録等で共有している。意思疎通困難な方はご家族からの情報を頂いている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時または生活支援に必要と感じた場合は可能なかぎりご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き反映させている。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事・水分・排泄等身体状況および生活状況での言葉・メッセージを記録し、スタッフ間共有に活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況・要望に柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域の中で生活できるように、民生委員・市民委員会・地区社共・町内会と意見交換できる機会を持っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。また内科医の往診が受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフは日々の健康管理や医療連携の大切さを十分理解し、ホーム看護師、協力病院看護師、訪問看護師とつねに連携し、入居者様の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入居者様のダメージを極力防ぐために頻繁に出向き、早めの状況把握に努め早期退院につなげている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階からホームの終末期の対応方針を伝えている。選択された方には看取り指針に沿って支援させていただいている。ご家族が望まれる場面が増えてきた。現在も支援中。早い段階からの支援の重要性が本当に大切と考える		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はすぐ対応できるように医療機関と連携している。スタッフには応急手当などの対応研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフの意識づけ、訓練等はずっと地域、町内の協力を要請できる話し合いが持たれている。ホーム自身も地域の支援資源となるように町内会と調整中。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修等にて「尊厳」の本質に触れるたびに話し合いを行い、スタッフ自身の在り方について学んでいる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定するのではなく、入居者様一人ひとりに可能な限り選択肢を揃えご本人に決めて頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活リズムや体調に合わせ支援している。強制的な日課はありません。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。ご自身で困難な方はスタッフが配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活支援の中で「食事」は重要と考え、一食一食を生活の楽しみにしている。食事を通して「生きている」実感できると考える。季節感、作る喜びなど、支援の内容は栄養班が中心に動いている。メニュー表は毎月ご家族へ送っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分などの日々チェックし記録。情報は共有。一人ひとりの状況に応じて形態・環境を考え工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア重要性を全スタッフが理解し、それぞれの方の能力に合わせて支援している。感染症が少ないのも自慢である。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの方の状態を把握し可能な限りトイレへ誘導。オムツ外しに向かいたい。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の生活状況食事・排泄・運動量などを考慮。自然排便に心がけている。下剤使用時も看護師・医師と相談している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む人もいるが、声かけ・対応を工夫し、羞恥心・恐怖心に配慮している。判断可能な方々は曜日、時間を選択している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し支援している。判断が困難な方はスタッフが判断している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方変更があった場合は、全スタッフが把握するまで申し送る。また薬の内容(目的・用量・副作用)を理解するよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でそれぞれに行ったり、昔の習慣が継続出来るようスタッフは環境づくり、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の状態に合わせ、ご家族の協力等もあり戸外に出かけられるよう支援を行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意を得てそれぞれの方々に合わせた支援を選んでいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話回線をひいている方、携帯電話をお持ちの方、ホームの電話を使用する方、それぞれである。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮、家具の配置などスタッフがユニットごとの雰囲気を感じ話し合っている。居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活環や季節感のあるものを工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しではあるが一人で過ごせたり、少人数で過ごせる場所を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人やご家族が自由に空間づくりをおこな内、支援が必要な場面はスタッフが相談に乗っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせた環境整備に出来る限り努め、状態が変化し混乱が生じた場合は、その都度スタッフは話し合い、不安材料を取り除いている。		

### 目標達成計画

事業所名 グループホーム ぞう

作成日: 平成 25年 5月 23日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	以前と比べるとスタッフの定着率が良くない	「やりがい」を見つけて欲しい。	スタッフの思いはどこか？理解できる場面多く持つ。	12ヶ月
2	13	学びの場が多いと考えるが実践に繋がっていない。	責任と自覚を持ち、自ら考えて、行動できるスタッフ目指して欲しい。	今まで同様学びの場の提供とスタッフ一人ひとりの力量把握。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。